

たんぽぽ学級の取組

(1) 実践内容 「自然となかよし」

年間を通し、校庭の植物の観察を続けたり、生き物と触れ合ったりして、五感を使って季節や季節の移り変わりを感じさせたい。また、活動する中で人との触れあいも大切にしていきたいと考え、実施してきた。

①「春とあそぼう」

・校庭の観察

1学期の初めには、きれいに咲いた満開の桜の木の下で、みんなで写真を撮り、1年の始まりを希望を持って迎えた。

4月5月には、春の草花の観察をし、草花遊びを行った。

学級の畑のジャガイモの観察をしたり、草抜きや水やりなどの世話をした。

・草花遊び

四つ葉のクローバーをさがしてしおりを作ったり、クローバーの花の首飾りや冠を作ったり、カラスノエンドウの笛やオオバコのすもうを楽しんだりした。秋に実るであろうぎんなんや柿の実の青い物も写真に納め、継続観察をして比べる材料にしようと考えた。

・こいのぼり

4月後半から当番を決め、国旗掲揚塔にこいのぼりを上げた。

②「夏をかんじよう」

・校庭の観察

校庭の青々とした木々を見て回った。実り始めた青い実を見てもぎんなんや柿を思い浮かべる児童は少なかった。

・いもほり

じゃがいもの葉が枯れてきた頃、みんなでいもほりをした。茎を引っぱると付いてくるじゃがいもを見てまず歓声が上がる。とれたじゃがいもは、蒸して早速味見をしてみた。何もつけなくてもほくほくしておいしい。おかわりをして食べる子もいた。また、5年生のキャンプ前のカレー実習にも使い、みんなで味わった。

・アサガオ・トマト・ハウセンカの観察

1・2・3年生がそれぞれ育てている植物も季節を感じる良い材料となった。ミニトマトは収穫もでき、他学年の児童にも味わってもらった。

・たなばたまつり

七夕に向け、短冊に願い事を書いたり、飾りを作ったりした。たなばたまつりでは、夏の味覚スイカを味わった。初め「スイカは嫌い」といていた児童も皆と一緒に食べる事ができた。

③「秋をあじわおう」

・校庭の観察

イチョウの木を見上げてぎんなんを確認。2年続けて不作だったが、今年は少しなっているのが見えた。「今年は収穫できるかも」と少し期待した。

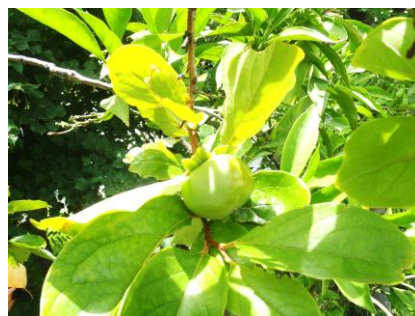
柿の木に、色がつき始めた実を発見。みかんもいくつか実がついている。児童は、「いつ食べる」と期待していた。

・柿の収穫

色づきのよい実だけ採って味わった。残りの柿はまた採りに来る約束をした。ところが数日後、柿の木には何もついてなくて児童はがっかり。最近増えたカラスに食べられた可能性が大きい。

・ぎんなんの収穫

児童みんなでビニルの手袋をして、ぎんなん拾いをした。今年は2年ぶりに大きいイチョウの木に実がなった。においが強いので嫌がる児童には「銀羊苑にプレゼントしに行くよ」



【見つけたよ、柿の実】



【ぎんなんの実】

と声をかけ、無理をさせないように少し拾ったら良いことにした。しっかり洗って干したぎんなんをみんなで袋詰めした。

- ・銀羊苑訪問

銀羊苑でなるこ踊りを見てもらうために運動会終了後練習を始めた。当日、デイサービスの利用者にもなるこを配り、一緒に鳴らしてもらった。児童は、衣装を着て一生懸命踊った。終わった後、お礼に歌を歌ってもらったり、握手をしたりして、満足げであった。

- ・さつまいもの収穫

みんなで畑に集まり、いもほりをした。少し収穫が遅くなったこともあり、大きなさつまいもがごろごろと出てきた。児童は大喜びである。とれたさつまいもは、総合発表会でハリネズミのスイートポテトを作って家族と共に味わった。



【ハリネズミのスイートポテト】

- ・小松菜の種まきと観察

学級園にみんなで小松菜の種まきをした。本当に小さな種で、手にくっつくほどだった。ときどき観察をして、草取り・水やりをした。児童は収穫を楽しみにしていた。

④「冬をたのしもう」

- ・さつまいものつるでリース作り

さつまいもの収穫の時につるをとっておいて、リースを作って乾燥させておいた。

12月になり、各家庭から材料を持ち寄りリースにボンンドで飾り、クリスマスリースを作った。



【さつまいものつるのリース】

- ・クリスマス会

図工の時間を使って、クリスマスの飾りやクリスマスカードを作った。また、クリスマス会では、クリスマスに関する言葉でビンゴをして楽しんだ。

- ・小松菜の栽培

種まきの時期が遅れたため、成長が悪く、収穫ができるかどうか不安である。

- ・ラディッシュの栽培

小松菜と同じ時期にラディッシュの種もまいた。これも時期が遅くなかなか育たない。

- ・みかんがない

みかんがほどよく色づいたと児童は喜んでいて、担任が観察に行ったら、なんとヘタだけになっていた。去年は大量に採れ期待していた児童は味わうことができず、がっかりだった。

(2) 実践の反省と課題

自然が相手の取組なので、計画通りに進まないことが多かった。3年前から行っているデイサービス銀羊苑訪問は、児童にとって拍手をもらい喜んでもらえる滅多にない機会である。いつもは世話をしてもらうことの多い児童であるので、自分がしたことによってこんなに喜んでくれる人がいるということが大切なことだと思う。銀羊苑の方々も児童のつたない踊りをととても喜んで見てくださる。ただ、たくさんのだしものができるわけではないので、ほんの少しの時間になってしまうのが、残念である。

本学の特別支援学級は人数が多く、障害も多岐にわたっているので、活動の仕方も個によって大きな違いがある。そのため、全員で協力をしながらの活動が困難だったが、時間の取り方や栽培場所・観察場所を工夫し、なるべく一部の児童に偏らない活動を考えていきたい。